

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	社会福祉法人晃宝会 グループホームあじさい園
(ユニット名)	ほほえみ
所在地 (県・市町村名)	奈良市茗荷町805-1
記入者名 (管理者)	松村 清子
記入日	平成 20 年 6 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関前に、法人、グループホームの理念を設置している。理念を玄関に設置することにより、訪問者にも理解してもらい、質問にも答えられるよう努めている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝、朝礼時に、職員全員で運営理念を復唱している。また、運営会議、全体会議等で職員に周知している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には契約時に、文章、口頭にて、また、行事、推進会議の中でも説明している。地域の人々には、運営推進会議において、当園の理念を理解していただくようお話ししている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	田原ホットステーションができ、毎週土、日曜日には、入居者様と買い物に行き、地域の方々と交流している。最近、顔なじみになってきた。地元出身の入居者様には、毎回、足を運んでもらい、地域とのつながりを大切にしている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の清掃活動、運動会、バザー等に参加している。法人の行事等に多数参加していただき交流を深めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議で、民生委員の方に、認知症等についての理解を深めていただき、また、介護保険制度等について説明し、相互に意見交換をし、話し合いをいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を会議にて報告し、話し合い、改善に努めている。他事業所(同一法人)の職員の意見も広く反映させるため、運営会議、全体会議、毎朝の全体朝礼においても情報を提供し、意見を求めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において、東部山間の各々の地域の状況、特性、また、あじさい園に期待するところをヒアリングし、昔ながらの営みや、助言を頂き、サービス向上に反映できるように努めている。地域包括支援センターとの関わりを密接にし、情報交換をしてサービス向上に活かしている。	○	日程の都合がつけば運営推進会議に市役所担当者の方にも出席して頂き助言を求めて、サービスの質の向上に努めたい。又行政の方にも、地域密着型のサービスをより一層理解してもらいたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターを通して、地域の情報に耳を傾けサービスの質の向上に努めている。また、事故報告を速やかに行い、場合によっては管理者と市町村とで連絡を取り合うこともある。ケアマネージャーが直接市町村へ相談に行くこともある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	定期的な寮母会議において、権利擁護に関する内容で、勉強会を行っている。又些細なことでも、顧問弁護士に相談をし、指示を仰ぎ、職員間で情報を共有している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に勉強会をし、まず「虐待とは」という知識の理解を深めることを何度も行い職員一人ひとりが振り返り、虐待等にあらないか注意を払い、より良いケアが出来るように努めている。介護上の悩みを一人でかかえないよう声をかけあっている。	○	疑問に思ったり、悩んだことが出来るだけ速やかに情報を共有し話し合い解決し、納得のいく介護ができる組織作りをしていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> <p>面会時及び、契約時に口答、書面にて説明し、また、不安や疑問についても傾聴し理解納得された上で、契約、解約を行っている。</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>御利用者からの意見、不満、苦情があれば、職員、ケアマネージャー、管理者へ報告し会議等で話し合い、改善、ケアの統一ができるように職員全員で努めている。法人の理事会、評議委員会においては、苦情、事故報告を詳細に行い意見を求めている。</p>	○	苦情等があれば、ホームページに、プライバシーを保護した上で、情報を公開し、広く意見を求め、改善に取り組んでいきたい。
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> <p>毎月、ふるさと通信(新聞)を発行し、個々に、御利用者の状態等を書き加え報告している。健康状態等の異常は、その都度早めに連絡し報告・相談し対応している。家族会を開き、御家族の意見等を聞く機会を設けている。出来るだけ多くの方に参加していただけるよう工夫している。</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> <p>玄関に意見箱を設置し、御家族の声を取り入れるようにしている。又、来園された御家族、又、電話連絡の際できるだけ多く声掛けを行い、意見を求める努力をしている。窓口の職員を明確にし、掲示している。</p>	○	家族会を開き、御家族の意見等を聞く機会を設けているが、より多くの参加をいただき、ご家族様とご本人のよい関係をバックアップしていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> <p>毎月、グループホームで寮母会議、管理者と管理・各事業所主任、各事業所職員で、運営会議、全体会議をし、意見交換をしている。また、各会議の内容を、職員に伝えている。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> <p>常時、平均的な職員の人数確保に努め、行事等があるときには、増員し対応している。又、緊急の場合は、同一法人内の他事業所に応援を頼んでいる。</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> <p>人事異動は、できるだけ少なくし、なじみの関係を築けるよう努めている。利用者に対して担当職員を決め、状態把握に努めている。毎日、行事参加、散歩等で同一法人内の他事業所をお訪れ各々の職員により積極的に声掛けを行うよう努力している。各ユニット毎に職員を固定することで、入居者様との信頼関係が深まった。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修としては伝達研修、全体会議での復命書の発表、テーマ別勉強会、各々に委員会がある。又、積極的に外部研修を受けるようにしている。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で知り合った方との交流や食事会を設け、情報交換等を行い、サービスの質の向上が出来るように努めている。市内のグループホームの研修を受け入れている。管理者も他施設見学、勉強会に参加し交流を行っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	個人の悩みや相談は、主任が聞き、上司、管理者に報告し、改善できるように努めている。悩み等、相談解決のための仕組みが法人内にある。管理者等も職員に声掛けを行ったり、毎朝の朝礼時に日頃の状況を聞くようにしている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が、勉強会発表者、担当、復命書発表係り等の役割を持ち、責任感を持つこと、又、自分自身を振り返り折に触れ、資格取得を促し、努力していることや、資格取得に関して、給与に反映したり、お祝い金を出している。勉強会や、資格取得の促し等によって、職員が常に向上心を持って働ける環境づくりに努めている。	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接を主任、ケアマネージャー等、複数で行いできるだけ積極的にご本人のお気持ちや、御家族の思いを傾聴する努力をしている。又、独自に工夫したアセスメントを利用している。ケアに反映させるため、ご本人の生活歴や嗜好等を詳しく聞いている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初回電話での相談時、初回面接時、契約時など家族からの情報収集を行い、できるだけ意向に沿えるよう対応している。初回面接時や介護計画作成時に家族の意向を積極的に傾聴し、プランに反映させ、安心してもらえるよう取り組んでいる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーと、どのような対応を具体的にどういったらよいかを相談する。又御本人御家族が入所することに対し、とまどいがあると思われる時は、他のサービス選択も検討できることを伝えている。初回面接時や介護計画作成時に家族の意向を積極的に傾聴し、プランに反映させ、安心してもらえるよう取り組んでいる。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	御本人が馴染んできた習慣を家族から聞き取り、ケアに生かすよう努めている。入所間もない利用者には職員が他の入居者とコミュニケーションがとれるよう支援している。ご本人が納得していただけるように、まず、見学に来てもらい、体験入所などもしサービスを開始している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事時、野菜の切り方や、味付け、畑のこと等を教わりながら、共に楽しみながらしている。行事外出等も、共に計画をし、楽しみにしていただけるよう声掛けを行ったり、余韻を楽しめるよう写真を掲示したりしている。	○	入居者様のそれぞれの体験をもっと生かせるような機会を作りたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族の方と一緒に御本人、御家族の意向等も聞きながら、より良いケアが出来るように努めている。可能な限り、御家族様のご協力を得るよう努めている。御家族が参加できる行事を増やし、交流する機会を増やしている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ふるさと通信や、行事に参加された御本人の写真を送付したり、御家族への思い等を聞いたときは御家族に伝えて、良好な関係が維持できるよう努めている。御家族の方が面会にこられた時や、電話等があった時は、御本人の近況を詳しくお伝えするよう心がけている。ご本人とご家族様とが和やかな時間が共有できるよう配慮している。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人、御家族が希望されたら、友人に会ったり、なじみの店や病院等に行くことができるよう御家族協力の下、支援している。地元出身の入居者様には、デイサービス等を利用されている友人と会っていただき、なじみの関係を大切にしている。		
31 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なじみの関係が出来ているので、できるだけ関係がうまくいくように席などを配慮したり、職員がさり気なく誘導して、話の輪に入ってもらおうよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了した御家族の方が、時々立ち寄って下さったり、ご寄付を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	慣れ親しんだ、家具や物品を居室に置き、畳の部屋を希望される方には、畳を敷き対応している。昔の生活を思い出しながら、なつかしい品物を飾ったり作ったりする。(写真、絵画、編み物)		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御本人に、聞いたり、日頃の会話の中から馴染みの暮らし方、好き嫌い、考え方等把握したり、御家族等に、話を聞き、把握に努めている。居室は、御本人の意見や御家族の話を聞き、慣れ親しんだ部屋に近づくように努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	カーデックスや職員の申し送り等で把握できるよう努めている。又ケアマネージャーと相談してアセスメントを行い、問題点を把握して、サービス計画書を作成し、日々の暮らしに反映できるように支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	御家族の意向も聞き、管理者、ケアマネージャー等がご本人の日々の生活の中で、ケアのあり方について、意見やアイデアを出し合い、ケアに反映させている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化があったときには、御家族、職員、ケアマネージャーで話し合い、新たに介護計画書を作成している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックスや寮母連絡帳に記入し、情報を全員に共有しながら実践等に活かしている。「いつもと違う」ささいな事を、聞きのがさないよう努力している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況に応じて特養への移行や、ケアハウスからグループホームなど、その人の状態に応じて支援に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の行事(運動会、盆踊り)等に参加できるように、民生委員さんに協力を求めながら、地域交流のための便宜等をはかっている。地元消防団に協力を求め、避難訓練を行っている。又、地元警察(駐在所)には定期報告、利用者報告を行って、学校や保育園との情報交換し、交流を継続している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人の状態に一番適切な在宅サービスであったり、施設サービス(特養等)を利用できるよう、連携を密にとっている。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に参加していただき、必要に応じて関わりを持っていただいている。又、職員同士が行き来して、情報交換を行ったり、アドバイスをもらっている。また、地域包括支援センターの職員にも、グループホームの行事に参加等してもらっている。		
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月一回の定期健診と、必要に応じての指示や、往診依頼で、密な連携をとっている。専門医の受診時には、かかりつけ医の紹介状等も依頼している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者様者一人ひとりに合わせた声かけ等をし、その人らしくお過ごしいただく上で、プライバシーを守るよう、全職員に徹底している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行事、外出等を決める時には、入居者様の意見も取り入れている。個々の外出、行事参加も御本人に選択していただけるよう条件を整え、ご本人の決定を支援している。自ら希望を言えない方には、御家族のご意見等を参考にしたり、表情や態度からのメッセージを大切にしている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ドライブ、買い物等希望があった時は、対応できるように努めている。起床時間等も御本人のペースで過ごしてもらっている。ご本人の体調等を考慮しながら、日々、穏やかに、その人らしく生活できるように心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	御家族が、美容、理容店に連れて行って下さる方もおられる。髪型等も、御本人、御家族の希望を聞き、パーマや毛染め、顔そりされている方もある。お化粧品、服装等個々の意思を尊重し、援助を行いしっかりと取り組んでいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、配膳、片付け等、入居者様の、できること、好きなことを職員と共にしている。バイキング、外食、お鍋、お菓子作り等メニューは出来るだけバラエティー豊富に考えている。体調や体力を考え、疲れないよう、たとえば、盛り付けする時、椅子に座っていただいている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒の好きな方には、夕食や行事のときに頂いてもらったり、おやつは常時のおやつとは別に個別に購入し、好みのものを食べてもらっている。現在、喫煙の方はおられないが、おられた時は、個別の対応で、満足していただいていた。居室で飲食していただく時は、誤嚥等しなうように見守りをしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	パットを利用している人もいるが、プライバシーに配慮した声掛けで定期的にトイレ誘導し、トイレで排泄できるよう支援している。又排泄チェック表を作成し、その状況に応じて、個別に対応している。紙パンツから、布パンツをはいていただき、失敗なく過ごせている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	定期的には決まっているが、毎日入浴の準備をしていて、いつでも入浴できるようにしている。又声掛けし入浴をすすめ、毎日入浴できる環境作りをしている。月に1回程度ではあるが、ご希望に合わせて、スーパー銭湯に行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとり、自分のペースで就寝していただいている。日中、散歩をしたり、生活にリズムを作り支援している。なかなか眠れない方は、寮母室に来て、職員と話したりし対応している。昼食後等、昼寝をしたい方には居室へ誘導し横になっていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	御本人の出来ること、好きなことを、職員と共に楽しんでいただいている。畑作り、習字、計算ドリル、掃除、洗濯等を、職員と共に行っている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人がお金を持っていないと、不安になる方には、御家族の了承も得て、所持していただいている。そのお金で、買い物にも行っている。買い物に行った時には、ご本人にお金を払っていただくように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気分や体調に応じ、また、御本人の意思を尊重し、外出、散歩等している。偏り無く一人ひとりのお気持ちに添えるよう努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	イチゴ狩り、バラ園見学、カラオケ等にも出かけ、外出日も御家族にお知らせし、参加を募っている。入居者様の意見も聞き、行きたい所等を、入居者様と一緒に考えている。外出時の様子を写真等でみてもらい、御家族の方に参加してもらいやすいよう努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人の希望に応じ、電話をしたり、手紙を書いたりするのに支援している。場合によっては、ご家族様へも協力を求めている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	御家族や御友人等が訪問されたら、御本人の居室にてゆっくり過ごして頂くよう配慮したり、ホールで他の入居者ともお話し頂けるようにしている。地域のなじみの方とは、ケアハウス、特養、デイサービスにおいてもお話できる場所作りをしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員を法人内に設置し、他職種、他部署と連携を取り、又、伝達研修や強会をし、職員一人ひとりが、理解、認識できるように努めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は開放、夜間は、施錠している。お一人で、外へでられる方もいるので、その都度、職員がみまもりしながら、付き添っている。 寮母会議等で身体拘束、認知症等の勉強会をし、理解に努め、全ての職員が周知している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	希望される方は、居室の小窓に目隠しをし、プライバシー保護に努め、安全確認も行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	生活に必要な物品、こだわりの品など、利用者様のお気持ちを大切にしつつ、注意の必要な物品は特に、見守りを強化し、声掛けして対応している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	会議や、寮母連絡帳にて対応の統一、確認をしている。定期的に、避難訓練もしている。些細なことも、ヒヤリハットとして書面にあげ周知している。事故報告書やヒヤリハット等書面に報告し、同じことがないように努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当のマニュアル作成、研修に参加し、勉強会等を行っている。毎年行われる日本赤十字社救急法救急員養成講習に数名参加している。また、緊急連絡網を作成し、緊急時に備えている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時緊急連絡網等も作成し、常備食も備えている。地域の消防団とも避難訓練している。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	小さなことでも、御家族に連絡、相談し対応策を一緒に考えている。ヒアリング、事故報告書も同じことが起こらないよう周知している。それ以外のリスクに対しても、リスクマネジメントをして、勉強会等を行い落ち着いて対応できるよう努めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の異変等に気づいた時は、カードックスに記入し、口頭でも申し送りし、情報を共有し、対応に結び付けている。異変のある場合は、特養ナースに指示を仰ぎ、状態によりホームドクターにも連絡する。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師より処方された薬の内容を職員は把握し、同時に法人内のナースにも報告している。「いつもと違う」を常に気にかけて支援を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の方が居たら、会議等で話し合いをし、水分摂取量に気をつけたり、散歩や、運動する機会を増やしている。水分摂取量は毎日記録している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、歯ブラシ等、口腔ケアを行い、夜間は、義歯を消毒のため預かっている。また、月に1回歯科衛生士が訪れ、口腔ケアとチェックをしている。又嘱託歯科医による検診、処置も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量を毎回記入し、水分摂取量も記入し支援している。又、その記録をもとに、ケアプランへの反映を心掛けている。食事の進まない方には、同法人の栄養士にも相談し食べやすいもの等を提供し、少しでも食欲が出るように工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対応マニュアルがあり、勉強会をしている。職員はケア前後や食事前には必ず正しい手洗いをしている。又外出先から帰った時、食事前も必ず、入居者様と共に手洗い、うがいをしている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎週土曜日に冷蔵庫の消毒をし、食器は、食器消毒表があり、毎日消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	保育園児や地域の婦人会の方と交流がある。ボランティアの方々にも来ていただいている。又、来園しやすい工夫、花壇の整備等行っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓には、ブラインドを使用し、光の調節に配慮している。職員の声の大きさ、言葉の優しさ等にも気配るよう努力している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	御本人のなじみの物を持ってきてもらい、今までと変わらないような空間作りに努めている。職員がその方の地域柄等を理解するよう努める。どんな場面にも、いつでも、職員が声掛けしたり、お話しが出来るように態勢を作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御本人のなじみの物を持ってきてもらい、今までと変わらないような空間作りに努めている。職員がその方の地域柄等を理解するよう努める。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、天候を見ながら、窓を開け換気をしている。ホールに温度、湿度計等置き配慮している。お一人おひとり体感温度が違うので、居室等の温度調節に気を付けている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室等の温度調節に気を配り、また、個々の衣服等の調節の時もご本人に声かけし、できるだけ自然なケアを行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	声掛けや見守りをして、さりげなく介助し、御本人が出来ることを生かしたケアに努めている。又、入所前に興味あったこと、得意であったこと等も理解した上で、工夫している。御本人の出来る力を生かせるように「待つ」ということを大切にしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑では花壇や畑作り、洗濯干し等活动し活かしている。テーブル、椅子、長椅子を置き、自然にゆっくり休憩できるよう配慮している。バーベキューや日光浴をしている。天気の良い日は外でおやつをいただいたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

緑豊かな田園風景に囲まれ、澄んだ空気の中、アットホームで生き生きとしたケアを心がけています。また、積極的な行事参加、社会参加で、地域とのつながりを大切にしています。ケアの面では、口腔衛生の管理には力を入れ、日々の口腔ケア、定期的な歯科衛生士ケア、誤嚥性肺炎の予防等の早期発見に努めております。電話等で、些細なことでも、ご家族様に報告、連絡、相談を心がけております。四季を感じていただくために、季節に合ったお食事、行事や外出をしています。

H20年度の目標は「笑顔」ですが、以下の運営理念

1. 人を愛し、尊敬し、一人ひとりの生き方を尊重します。
2. 能力に応じ、自立度たかくその人らしく生活できるよう支援いたします。
3. 常に相手の立場にたち、思いやりと笑顔を忘れません。
4. より以上に質の高いサービスを提供できるよう、謙虚に学ぶ姿勢を保ち続けます。
5. ご本人、ご家族、地域の皆様に支えられていることに感謝し、連携を大切にいたします。

により発する誠意ある笑顔でありますように、職員一同心をこめて支援しております。